

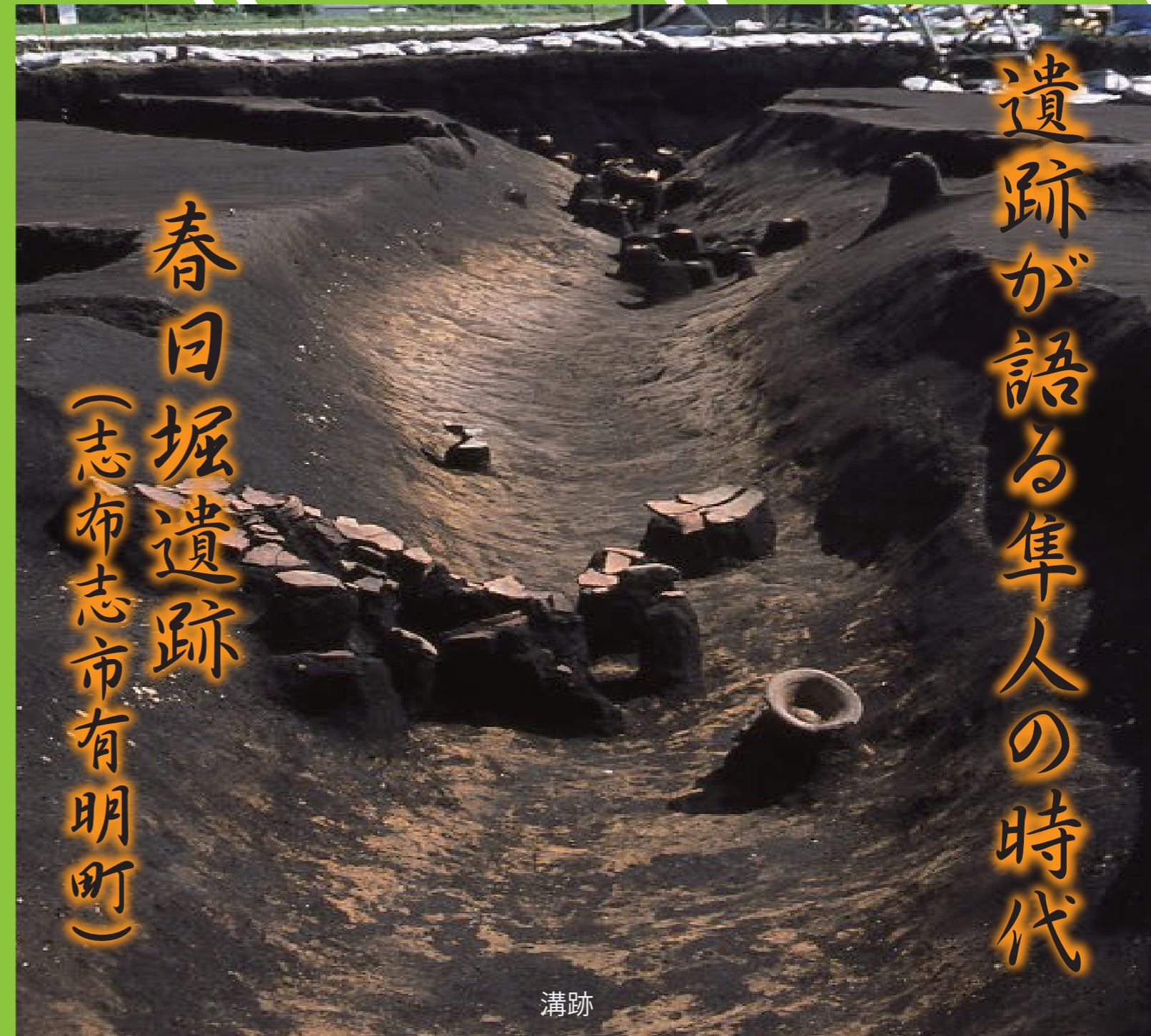


当センターでは、県内各地で発掘調査を行っており、その様子を見学することができます。見学の際は、当センターまたは各遺跡にある調査事務所までお問い合わせください。



令和2年度の事業内容

起因事業	遺跡名	内容	期間
東九州自動車道建設	春日堀遺跡	整理作業	R2.4~R3.3
	荒園遺跡	整理作業	R2.4~R3.3
	細山田段遺跡	報告書刊行	R2.4~R3.3
	小牧遺跡	報告書刊行・整理作業	R2.4~R3.3
	川久保遺跡	報告書刊行・整理作業	R2.4~R3.3
	牧山遺跡	整理作業	R2.4~R3.3
南九州西回り自動車道建設	山ノ段遺跡	報告書刊行	R2.4~R3.3
	六反ヶ丸遺跡	報告書刊行	R2.4~R3.3
		発掘調査	R2.10~R3.1
	北山遺跡	発掘調査	R2.10~R3.1



春日堀遺跡
(志布志市有明町)

遺跡が語る隼人の時代

溝跡

「かごしまの遺跡」は、ホームページからダウンロードできます。
(公財)埋蔵文化財調査センターのホームページは、上野原縄文の森 (<https://www.jomon-no-mori.jp>) または、鹿児島県文化振興財団 (<https://www.houzanhall.com/zaidan/>) からお入りください。

検索キーワード
上野原縄文の森 | 検索

～かごしまの遺跡～ 第22号
発行日 令和2年6月19日
編集・発行 (公財)鹿児島県文化振興財団 埋蔵文化財調査センター
〒899-4318 鹿児島県霧島市 国分上野原縄文の森2番1号
TEL 0995-70-0574 FAX 0995-70-0575
URL: <https://www.jomon-no-mori.jp>
E-mail: maibunchosa@tuc.bbq.jp

かすが ぼりいせき たてあなたてものあと ほったてばしらたてものあと ち か しきよこあな ぼ みぞあと
春日堀遺跡では、**竪穴建物跡9軒、掘立柱建物跡7棟、地下式横穴墓1基、溝跡3条**からなる
あすかじだい (7世紀中頃～後半) の集落跡が発見されました。集落跡は竪穴建物跡と掘立柱建物跡
が大型の溝跡に囲まれています。大型の溝跡には防衛的な性格がうかがわれ、発見された鉄鍬は
7世紀中頃～後半、大隅半島内部に生じていた当時の社会的緊張を示すものとみられます。
※ 飛鳥時代には、律令国家の形成過程にあったヤマト王権により、南九州や南島への進出が企て
られました。南九州の人々が隼人と呼ばれるようになったのもこの頃です。

報告書刊行

令和元年度は 10 の遺跡の報告書を刊行しました

細山田段遺跡 (鹿屋市串良町・曾於郡大崎町)

細山田段遺跡は、縄文時代早期～古墳時代の遺跡です。縄文時代早期に意図的に埋められた土器(埋設土器)など、当時の人々の精神文化を考える上で貴重な資料が報告されました。また、石を集めて調理施設として使用したと考えられる18基の集石や狩猟具であるやじり(石鏃)、加工などに用いられた石器(石匙)などが発見され、キャンプ地としての役割を担っていたと考えられます。



小牧遺跡 (鹿屋市串良町)

小牧遺跡は、旧石器時代～近世の各時代の遺構・遺物が発見され、各時代の人々の活動の場であったことが報告されました。注目されるのが中世の石組遺構(多数の礫を床や壁に敷きつめたもの)で、約200個の礫を白色土によって組んであり、床面からは東播系須恵器(兵庫県あたりで作られた焼き物)の播鉢が出土しました。



宮脇遺跡 (曾於郡大崎町)

宮脇遺跡は、旧石器時代～近世の遺跡です。旧石器時代では石を使った調理の跡である礫群2基、ナイフ形石器などが報告されました。また、縄文時代早期の貝殻で模様をつけた土器(貝殻文円筒形土器)や棒に刻んだ模様を粘土に押しつけて回転させながら模様をつけた土器(押し型文土器)などが出土しており、当時の人々の生活の様相を知る上で貴重な資料となりました。



安良遺跡 (志布志市志布志町)

安良遺跡は、縄文時代～近世の遺跡です。古墳時代の溝状遺構から発見された特徴的な土器や鉄器などが報告されました。また、中世の炭化したご飯のかたまりは鎌倉時代のもので、九州最古の出土例となりました。



安楽小牧B遺跡 (志布志市志布志町)

安楽小牧B遺跡は、旧石器時代～近世の遺跡です。縄文時代草創期の土器・石器の出土が報告され、注目されています。様々なバリエーションの爪形文(爪でつけた模様)や爪の圧痕(爪の跡)がつく土器が一つの遺跡からまとまって出土した県内初の事例です。石器については、敲石(石のハンマー)、磨石、石皿(どちらも木の実などをすりつぶすための道具)が発見され、当時の生活を考える上で全国的にも重要な資料です。



川久保遺跡 B・D 地点 (鹿屋市串良町)

川久保遺跡は旧石器時代～近世の遺跡です。B・D地点の縄文時代～中世までの遺構や遺物が報告されました。煤のついた古墳時代の壺が多いことが特徴で、それらは当時の人々の煮炊具の使用方法を考える上で貴重な資料です。また、意図的に穴を開けた完形の壺形土器も出土しています。



春日堀遺跡 (志布志市有明町)

春日堀遺跡は、縄文時代早期～近世の遺跡です。弥生時代終末期から古墳時代前期の10軒の竪穴建物跡(住まい)から成る集落跡が報告され、注目を集めました。そのうち7軒は住居の廃絶後に焼かれた形跡があり、その数は県内最多です。住まいの移動に伴って家を焼く儀式が行われたと考えられています。



牧山遺跡 (鹿屋市串良町)

牧山遺跡は、旧石器時代～中世の遺跡です。竪穴住居跡3基、連穴土坑5基、石蒸し料理の跡と考えられる集石114基などから成る縄文時代早期の集落跡が報告されました。出土した土器や石器の分析から、小規模な集団の狩猟キャンプや堅果類採集・加工場所として利用されたと想定されています。



永吉天神段遺跡 (曾於郡大崎町)

永吉天神段遺跡は、旧石器時代～近世の遺跡です。弥生時代の集落と墓域のエリアが同一の地上で発見された県内初の事例が報告されました。当時、南九州に周溝墓や土坑墓など、北部九州と共通する墓制・葬制(お墓を作り吊る慣習)があったことが分かりました。



六反ヶ丸遺跡 (出水市六月田町)

六反ヶ丸遺跡は、縄文時代晩期～近世までの遺跡です。調査した場所は、河川の堆積作用によってできた自然堤防状の地形で、堆積土中にも流れ込んだ多量の遺物が含まれていました。古墳時代の竪穴建物跡(住まい)や土坑(掘りこんだ穴)、ピット(柱穴)が見つかっています。



発掘調査

令和元年度は 3 か所の遺跡の発掘調査を行いました



六反ヶ丸遺跡 (出水市六月田町)

令和元年度の発掘調査では、壁面が焼けていて、炭が多く含まれた古代の土坑(掘りこんだ穴)が確認されました。床面からは素焼きの土器である土師器も出土しており、土器が焼かれた跡などの可能性があります。また、古墳時代の土器が多数集まった土器溜まりからは壺などのまとまった遺物が出土しました。肥後系土器(熊本あたりの土器)も数多く出土しており、八代海周辺との文化交流を物語るのではないかと考えられます。



山ノ段遺跡 (出水市下鯖町)

山ノ段遺跡は、縄文時代主体の遺跡で、縄文時代早期～晩期の土器や石器が出土しました。遺跡の場所には繰り返し土砂が流れ込んだ痕跡があり、発見された土器や石器は周辺から流れ込んできたものも含まれていると考えられます。注目されるのは安山岩製の石槍で、長さが18cm、重さは404gあります。



石鉢谷 A 遺跡 (鹿屋市古里町)

石鉢谷 A 遺跡は、鹿屋体育大学のすぐ近くの丘陵の先端部分にあります。平成30・令和元年度に調査を実施しました。古墳時代の土器や、縄文時代早期の集石や石皿などが発見され、人々の確かな足跡がうかがえます。西側の隣接地には、石鉢谷 B 遺跡があり、今後、発掘調査が行われる予定です。

